

水泳競技の普及と発展

山口県立西京高等学校

神 田 久 輝

1 はじめに

山口県立西京高等学校に水球部が創設されたのは、平成19年4月のことでした。創設のきっかけとなったのは、平成23年度に行われた「おいでませ！山口国体」の開催が大きく関係しています。当時、山口県高等学校には水球部が無く、指導者もいない状態からのスタートでした。選手の確保から始まり、未普及競技である水球を地域に普及させ、4年後の国体で好成績を収めるというプロジェクトは非常に困難な状況ではありましたが、逆に、山口県水球界における新たな1ページをスタートさせる大きなチャンスととらえ、様々な活動に積極的に取り組んできました。

2 創部からの歩み

平成19年	・平成23年度山口国体に向けて、同好会としてスタート 4名の部員が入部
平成20年	・新たに3名が入部し、規定の7名が揃い公式戦に初出場 中国大会 8位
平成21年	・ジュニアチームの選手（山口国体時3年生）が4名入学 ・プール改修工事（水深を40cm嵩上げ） ・中国大会 4位
平成22年	・ジュニアチームの選手（山口国体時2年生）が7名入学 ・中国大会 3位
平成23年	・ジュニアチームの選手（山口国体時1年生）が4名入学 ・山口国体 6位（初出場） ・水球エキシビジョンマッチ開催（大分県チームと対戦）
平成24年	・全国高校総体 3位（初出場） ・岐阜国体 5位 ・水球エキシビジョンマッチ開催（岡山県チームと対戦）
平成25年	・中国大会 4位 ・日本ジャンボリーで水球教室を開催 ・水球エキシビジョンマッチ開催（長崎県チームと対戦）

3 水球競技について

水球競技（ウォーターポロ）は、ゴールキーパー1名、フィールドプレーヤー6名、1チーム合計7名の競技者によって、相手ゴールにボールをシュートして得点を争うゲームです。いわば、水上で行うハンドボール、サッカーといったところです。オリンピックでは1900年第2回パリ大会から採用されている非常に歴史のあるスポーツです。

ジュニアオリンピック夏季大会では

○A区分＝中学生を除く12歳以下男女

○B区分＝高校生を除く15歳以下男子

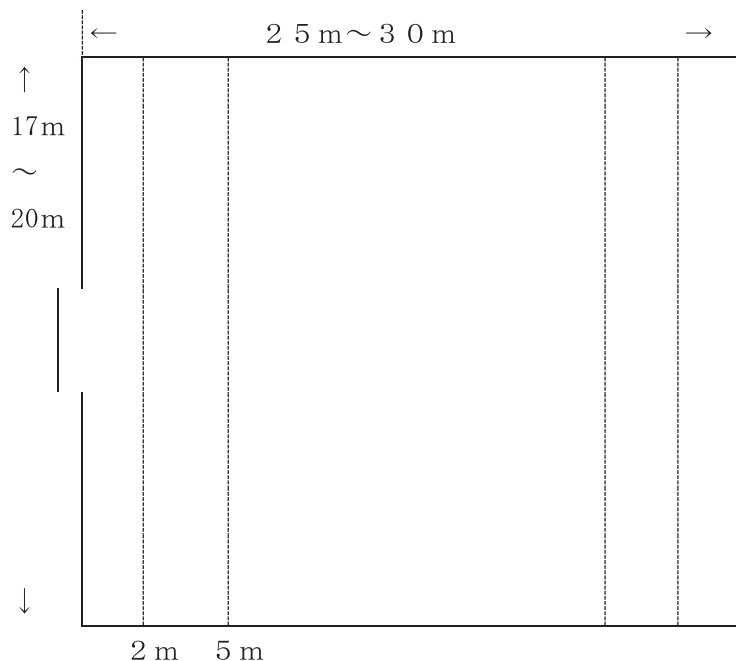
○C区分＝高校生を除く15歳以下女子

○E区分＝大学生と小学生を除く18歳以下女子

以上、4区分に分かれて争います。

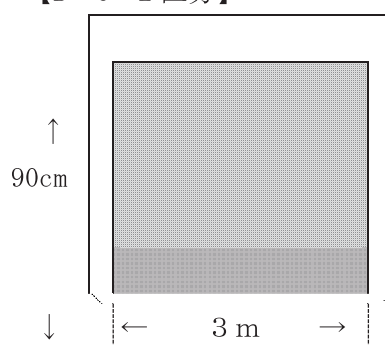
ここでは水球競技のルールについて簡単に説明します。

① コート

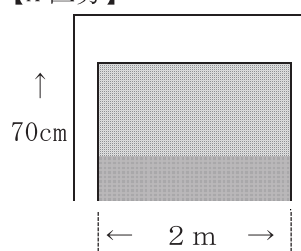


ゴール

【B・C・E 区分】



【A 区分】



A、C、E 区分は 17m×25m、B 区分は 20m×30m のコートを使用します。

正規の試合は 2m 以上の水深で行われるため、足をつくことはできません。選手は試合中ほとんど泳いでいることになる、大変ハードで、スリリングなゲームです。

② ルール

水球の反則には大きく分けて

1. オーディナリーファール
 2. エクスクルージョンファール
 3. ペナルティファール
- の 3 つがあります。

4 水球競技の普及活動について

① ジュニアチームの活動

山口県立西京高等学校に水球部が創設される前の平成 17 年 4 月に、水球のジュニアチームである山口水球クラブが（一財）山口県水泳連盟により創設されました。創設の狙いは、山口国体の世代を山口県立西京高等学校への進学と、ジュニアチームの拠点を市民プールに置き、地域の子供たちへの普及でした。

毎週、日曜日の夕方に水球クラブの練習を行い、少しずつではあるが水球の競技人口を増やしていきました。水球クラブの練習の中で、選手発掘を行い試合に出るグループを「強化コース」、水球を楽しんで続けるグループを「育成コース」と名称を決めて普及育成を行っていきました。平成 21 年度より、指導者を増やすことによって、より活動の幅が広がってきました。「強化コース」の練習は週 5 回に、「育成コース」の週に 1 回だった練習を木曜日と日曜日の 2 回に増やし、週末が忙しい子供たちへの参加の機会を増やすことが出来ました。

また、山口水球クラブと山口県立西京高等学校の連携として、週末の合同練習を行っています。指導者が教える練習や、高校生が指導者として教える練習を組み合わせました。高校生に教わることで、いつもとは

違う環境となり、子供たちにとっては良い刺激になっています。選手の個人能力を指導者間で共有するために、選手の個人カルテを作成して小学校から中学校、中学校から高校への選手の受け渡しをスムーズにしました。

また、近隣の中学校水泳部に対して水球を体験してもらうことを目的として、平成19年度より西京高校プールにおいて、毎年11月に中学校対抗での「山口県水球競技大会」を開催し、水球競技の普及と選手発掘を行っています。大会を開催すると同時に、大会を使つての競技役員の研修会も行ふことで、競技役員育成にも取り組んでいます。

② 水球教室の開催

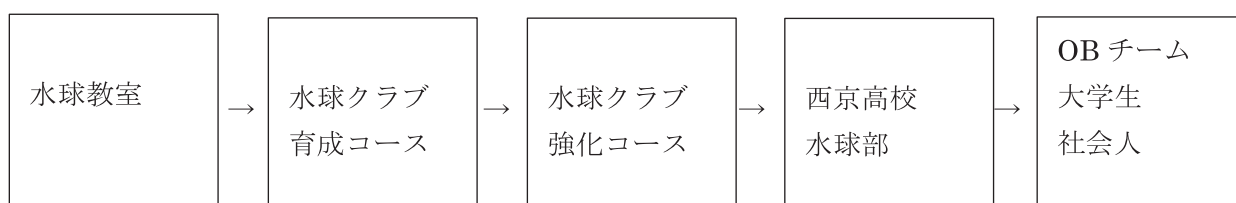
平成19年度から水球教室を開催し、平成24年度より、山口市の「我がまちスポーツ推進事業」の候補種目に入ることが出来ました。

水球教室を始めた時は、なかなか思うように参加者が集まらなかったのですが、水球の楽しさを伝えていく中で年々参加者が増えてきました。平成24年度より山口市との連携で、今まで広報活動の行き届かなかった地域の小中学校に対してチラシを配ることが出来るようになりました。「我がまちスポーツ」に選ばれたことをきっかけに、年間で1～2回行っていた水球教室の回数を、24年より年間で6回（7月、12月、2月）と増やすことが出来ました。



水球教室の参加人数が増えることで、水球に興味を持つ子供も増え、山口水球クラブに入部する子供も増えてきました。

③ 選手育成の流れ



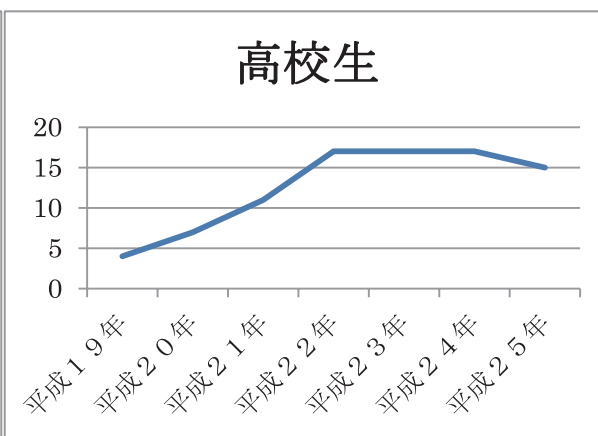
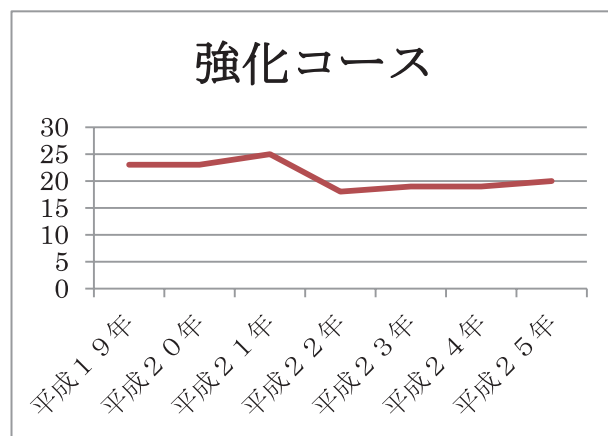
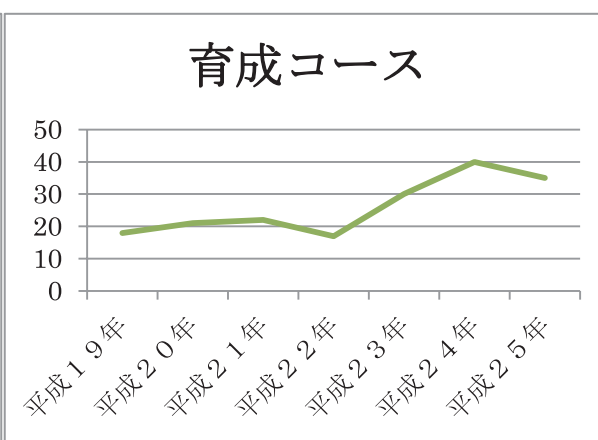
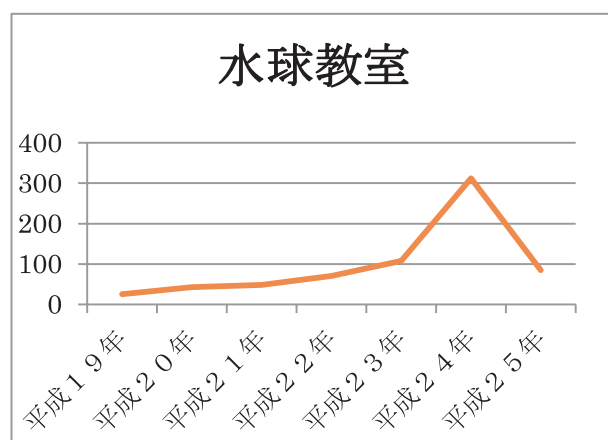
④ 普及活動の歩み

平成17年	・(一財)山口県水泳連盟により山口水球クラブ創設
平成18年	・毎週日曜日に水球クラブの活動を実施
平成19年	・山口県立西京高等学校水球部創設 ・水球教室を2回開催 ・第1回山口県水球競技大会を開催 ・山口水球クラブ小学生 全国大会に初出場
平成20年	・水球教室を2回開催 ・山口水球クラブ小学生 全国大会に出場
平成21年	・水球教室を2回開催 ・山口水球クラブ小学生・中学生 全国大会に出場

平成 2 2 年	・ 水球教室を 2 回開催
平成 2 3 年	・ 水球教室を 1 回開催 ・ 水球エキシビジョンマッチ開催（大分県チームと対戦） ・ 山口国体 6 位
平成 2 4 年	・ 山口市我がまちスポーツに選ばれる ・ 水球エキシビジョンマッチ開催（岡山県チームと対戦） ・ 水球教室を 6 回開催
平成 2 5 年	・ 山口水球クラブ（OB）の活動開始 ・ 水球エキシビジョンマッチ開催（大分県チームと対戦）

⑤ 水球人口の推移

	水球教室	育成コース	強化コース	西京高校	OB チーム
平成 1 9 年	25 名	18 名	23 名	4 名	
平成 2 0 年	43 名	21 名	23 名	7 名	
平成 2 1 年	48 名	22 名	25 名	11 名	
平成 2 2 年	70 名	17 名	18 名	17 名	
平成 2 3 年	108 名	30 名	19 名	17 名	
平成 2 4 年	312 名	40 名	19 名	17 名	
平成 2 5 年	85 名	35 名	20 名	15 名	15 名



5 水球競技普及と指導者育成の結びつき

水球教室の開催等で普及活動は軌道にのってきましたが、山口水球クラブの「育成コース」から、いかにして試合に出場する「強化コース」へシフトしていくかという大きな問題があります。現在は、西京高校の卒業生や部員とともに、部活動の時間を使って「育成コース」の子供たちへの指導をしています。そのなかで、1人でも多くの子供たちが、あこがれの選手（高校生等）とふれあい、自分も選手として試合に出てみたいと思ってもらえるような様々な仕掛け（工夫）をしていきたいと考えています。

また、高校生の中には子供たちへの指導を通して、教えることの楽しみを知り、将来的には指導者を志す者も出てきました。まだまだ未普及競技である水球においては、競技人口を増やすことと同様に、指導者を育成していくことが、重要な課題だと思います。

6 今後の取り組み（まとめ）

現在、山口市で開催している水球教室には、年間で約300名の子供たちが来てくれています。この水球教室に来てくれている子供たちを、「育成コース」へ定着させ、更に「強化コース」への流れを作ることで、山口県の水球競技発展に大きくつながっていくと思います。そして、山口水球クラブで育った子供たちを西京高校水球部へと進ませることが、更なる部活動の活性化につながるのではないかと考えています。

また、小学校から中学校・高校を経て、社会人まで継続して水球ができる環境を整えると同時に、各カテゴリーにおける「一貫指導プログラム」の作成が必要不可欠ではないかと考えています。今年度は高校を卒業してからも何らかの形で水球に携われるように山口水球クラブのOBチームを作り、高校生の練習相手として汗を流したり、試合に出たりしています。

平成23年度に山口国体が開催され、全ての競技において普及・発展の取り組みが始まり、水球競技においても、山口県立西京高等学校に水球部が創部されました。多くの卒業生たちは、自分の貴重な時間を割いて後輩達の指導に来てくれています。今後は、さらに指導者を増やし、山口市だけの活動がメインになっている水球教室を他の市町でも開催することが目標です。

平成19年度よりゼロからのスタートをし、地域での取り組みを行った効果が徐々に見えてきました。これからも、今まで以上に地道な活動を積み重ね、「水球教室」を楽しみにしてくれる子供を1人でも多く増やしていくことが、山口県における水球競技の発展につながるものと信じています。

